

陸幕長の辞任について  
考えたこと

理事長 富澤 暉

7月28日に防衛特別監察の報告があり、岡部俊哉陸上幕僚長が辞任した。

私はその前日に2つのテレビ会社からインタビュアー・出演等を申し込まれ、ある新聞社からコメント（論評）を、との依頼を受けた。28日朝にコメント案を次のように書いてみた。

「岡部陸上幕僚長、辞任の報を受けたのコメント」

1 法律的な問題に就いて、自衛官・元自衛官はコメント（論評）を述べる能力も資格も持たない。岡部氏が特別防衛監察の結果を受けて、堂々と辞任したのは文民統制を守るべき自衛官としては当然であったと思う。

2 自衛官は若い時から、「仲間（上司、同僚、部下）を裏切らない誠実さ」を持つよう教育されている。岡部氏はその点で実に立派な自衛官であり、「今後とも我々が仲間」である、と私は信じている。

3 次期陸幕長以下の現職自衛官には「引き続き誠実に勤務し、国民の負託に応えて欲しい」と願う。

4 苦しい時、私どもは林敬三元統幕議長（故人）から教えられた「大いな

る精神は静かに忍耐する（シラー）」という言葉を噛みしめつつ耐えてきた。これからもこの言葉は有用だと思

う。これに付け加えて、「政治家には政治家の倫理があり、防衛官僚には防衛官僚の倫理があると思うので、政治家批判、官僚批判には参加しません」とメールしたら、新聞社と某テレビ会社からは「厳しい批判をと考えていたのですが、それが難しいことが良く解りました。それでは今回は見送らせて頂こうと思います」という趣旨の返メールが来た。

かつて、空幕長の田母神氏が罷免された時、空自OBの同期生から「つばさ会（空自OBの会）で、防衛省にみんなんで抗議しよう、という意見が盛り上がっている。どうする？」と聞かれ「新しい空幕長に、彼以下の現職隊員たちがOBに何をしてもらいたいのか、と聞いて対処すべきではないか」と答えたことを思い出した。

田母神氏はあの時、自ら防衛大臣に抗議していた。岡部氏は監察結果について「深刻に受け止めおわびする」（時事ドットコム）のコメントを出した後、一切の弁解をしていない。明らかに違う状況だが、それだけに岡部氏と残された陸自後輩の心情を深く察して対処したい。